

# ニュースレターくもと News Letter Kumamoto

冬  
January  
2012  
vol. 92

■Publisher : Kumamoto International Foundation  
4-8 Hanabata-cho, Kumamoto City, 860-0806, Japan  
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/

■発行 : (財)熊本市国際交流振興事業団  
〒860-0806 熊本市花畑町 4-8  
Tel : 096-359-2121  
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/



## CONTENTS

2012年 年頭のご挨拶	1P	世界を知る	6P
熊本県内の日本語教育の実情と多文化共生のための新たな取り組み	1・2・3P	未来のために	7P
ちょっといわせてはいよ	4・5P	ちょっと日本語・きふプロ	8P

## 2012年 年頭のご挨拶



旧年中は、当事業団の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

3月11日に起きました東日本大震災では多くの方々が被災、今なお不自由な生活を強いられておられます。当地からもお役に立てることを

考え実行していくと共に、1日も早く復興がなされ、明るい年になりますように祈願しております。

一方、日本全国から「頑張ろう、日本」の合言葉のもと、多くの方々がボランティア活動、募金活動など様々な支援活動をされております。また、海外の多く

の国や地域からも支援が届いております。この中には、日頃日本からの支援を受けている国々が多く含まれ、これまで育まれてきた各国との国際交流の賜であり、心から敬意を表したいと思っております。

本年、当事業団では、政令指定都市となる熊本市の国際化、多文化共生社会の構築に、ますます貢献、努めてまいり所存でございます。さらなる皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。文末になりましたが、皆様の本年のご健康とご健勝を心よりお祈りしつつ、2012年の年頭のご挨拶とさせていただきます。

理事長

小堀富夫

## 熊本県内の日本語教育の実情と多文化共生のための新たな取り組み

### 熊本県内の日本語教育の実情 (アンケート調査結果より)

平成22年5月に、文化庁文化審議会国語分科会が、地域のグローバル化と在住外国人の定住化、また彼らの生活ニーズの多様化の中で、日本語を使って健康かつ安全で、自立した、文化的な生活ができるようになることを目的とした「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」\*を公表しました。この中で、当該国語分科会は、国は標準的な内容と方法を提示、都道府県は各自治体の実情に応じた日本語教育の体制とその内容の検討・調整、市町村は現場の実情に沿った具体的な日本語支援の編成・実施を行うこと、と定義しました。さらに、平成23年1月に、

各地域の実情に応じた日本語教育プログラムを作成する方法・活動方法について解説した「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」\*\*が取りまとめられました。

このような動きに合わせて、(財)熊本市国際交流振興事業団(以下、KIFと記述)では、熊本県内の在住外国人の日本語教育の実情を明らかにするために、熊本県国際課及び熊本県国際協会と共同で熊本県内の市町村を対象に「地域における日本語教育アンケート調査」を実施しました。結果、熊本県内の約9,000人の在住外国人の居住は散在傾向にあり(熊本市黒髪地区

における留学生等、一部、集住地区があります。)、国籍では中国、フィリピン、韓国・朝鮮の順に多く居住されていることが分かりました。在留資格では永住者、特定活動等様々ですが、県内に広く国際結婚の配偶者、技能実習生が居住されていることも分かりました。

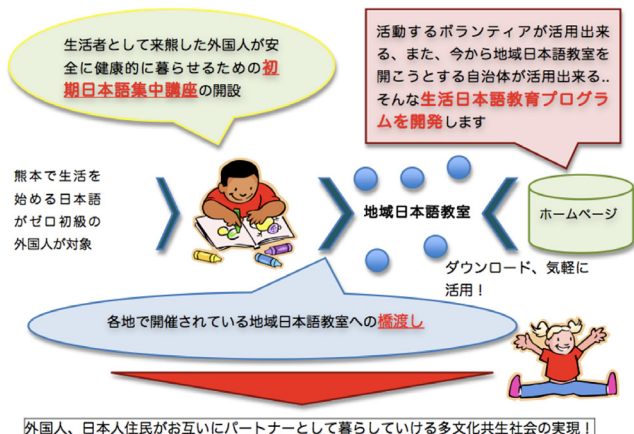
多文化共生社会づくりの取り組みとして重要となる日本語教室の開設状況について、ご回答いただいた44市町村中8つの市町村が開催していますが、全体としては国際結婚の配偶者、就労外国人・留学生、家族滞在、中国帰国者とその家族等のおかれている状況の多様性に対応できる日本語教育がないことが1つの課題として浮かび上がってきました。日本語教室開設の課題について、10以上の市町村が次の点を上げています。

- 学習者のニーズが分からない。(内容、時間帯等)
- 予算がない。
- どのように対応してよいか分からない。

国際交流会館での「くらしのにほんごクラブ」、「漢字教室」等、多様な日本語教室が開催されている熊本市においても、日本語支援ボランティアの方々から「外国人学習者のニーズに合っているのだろうか?」と学習内容に関する不安を耳にすることがあります。これらの実情に対応するため、今年度(平成23年度)の熊本県多文化共生社会づくり推進事業として、KIFは次の事業を実施しています:

- 1) 熊本県内に暮らす在住外国人のニーズに合った生活日本語教育プログラムの開発
- 2) 日本語ゼロ初級の在住外国人を対象にした初期日本語集中講座の開設

**日本語教育は、多文化共生社会づくりを推進する鍵です!**



**生活日本語教育プログラムの開発について**

1) の生活日本語教育プログラムの開発は、前述の熊本県内市町村の日本語教室開設の課題と日本語支

援ボランティアの不安を解決するものとして、熊本県立大学文学部日本語日本文学科馬場良二教授の研究室の学生と共同研究として取り組んでいます。(県立大学の学生GP(グッド・プラクティス)制度に採択され、学内での研究と社会現場の課題をつなげ、解決していく地域社会貢献事業として実施)

6月から9月にかけて、県内外の日本語教室を訪問し、外国人学習者に生活の中での日本語コミュニケーションの課題や日本語学習で期待すること等を、日本語支援ボランティアに日本語ボランティア活動中に困ったことやテキストに関する要望等を、それぞれ聞き取り調査を行いました。その結果、外国人学習者の方々が、「日本語コミュニケーションにおける困難さを感じる場面」として、震災・台風等緊急時や病院・薬局訪問時という回答を多くいただきました。また、「日本語を使ってやってみたいこと」として、仕事(就職活動を含む)が最も多い回答でした。

これら「緊急」「病院」「仕事」をテーマとして、在住外国人の方々が社会の一員として自立した生活が送れるようになることを目的に、日本語学習のプログラムを作成していくことになりました。プログラムは、地域の日本語教室で日本語支援ボランティアが外国人学習者と一緒に学習できる内容(指導者向け手引きを作成)、また簡単な日本語が読める外国人学習者であれば一人で学習が可能な内容に作っていく計画です。テーマ毎に4場面を想定し、各場面を1課90分間で学べるものとし、課毎に独立した学びが得られ、必ず生活に必要な内容を含んだプログラムにします。

この生活日本語プログラム開発は、フィールド評価テストを重ね、今年3月にはホームページ上に公開を予定しています。



地域日本語教室で活動するボランティアの方々へ聞き取り調査(生活日本語プログラム開発)

## 初期日本語集中講座について

2) の初期日本語集中講座の開設は、在住外国人の母国からの家族呼び寄せに代表される日本語コミュニケーション能力がほぼゼロで来日する外国人が増えている現状への対応、また日本語環境で生活は始めているが日本語を学習した経験がなく日本語コミュニケーションに不安を抱えている日本語初級の方々を対象にした全く新しい、これまでにない取り組みです。来日直後、就労や大学での学習等を行うこともなく、まずは日本での生活に慣れ親しんでいくことが第一となる彼らに1週間、集中的な日本語の基礎学習(文法と語彙)を提供します。朝9時30分～午後4時30分まで1日6時間(1時間のお昼休み) ビッシリ日本語漬けになります。集中的に30時間以上、生活で必要となる日本語の基礎学習をする場です。日本語母語話者は、助詞や形容詞・動詞の語尾の変化を無意識のうちに使い分けていますが、外国人にとってこれらの日本語の構造、変化は複雑でなかなか理解することはできません。例えば、「明日、～に～で、行きます。」「昨日、～で、～を、食べました。」の助詞の使い方、「来る」「来ない」「一日」「二十日」の動詞や数詞の読み方の変化、「貸す」「借りる」の使い方の違い、等々です。

数名の日本語の専門家にご協力いただきプロジェクトチームを組み、3ヶ月かけて準備を行いました。独自のテキストで既に集中日本語講座を実施されている佐賀県の日本語学習支援 カスタネットのテキストを利用させていただきました。そして、10月に第1回目の初期日本語集中講座の開催にこぎ着け、第2回目を11月に開催しました。あいさつ、数詞、動詞、形容詞..と学習していきます。絵カード、大きな表などを使って繰り返し練習、宿題で振り返り復習を行い、最終日には学習の成果発表、地域日本語教室の日本語支援ボランティアの方々にも参加していただき、外国人学習者が引き続き日本語を学習していけるよう交流会を行います。当初、日本語に自信が持てなかった外国人学習者が、日本語の助詞、動詞の時制など細かなところまで意識しながら学習成果を発表でき、素晴らしい進歩です。また、学習者同士の交流と熊本での生活情報の交換の場になりました。

今年は1月(1月29日～2月5日)、そして2月(2月25日～3月4日)の2回の開催を計画しています。(4月以降は計画中、現在未定)



第1回初期日本語集中講座の発表会/交流会で、  
学習者と講師の皆さん

## 多文化共生社会づくり推進における日本語教室の役割と今後..

今回の特集記事で紹介した2つの生活者としての外国人を対象にした日本語教育の取り組みは、相互に連携を図りながら進めていく取り組みとなります。1) の生活日本語教育プログラムは、地域の日本語教室の教材として活用されることが期待できます。そして、2) の初期日本語集中講座は、各地域の日本語教室へ学習者を送り出し、そこでの日本語支援ボランティアの方々とつないでいく役割を担っています。

単に外国人を支援するというだけではなく、日本人住民が外国人と一緒にあって日本語でのおしゃべりや交流をとおして、相互理解を図り、豊かな社会を作っていくための取り組みとすることができます。外国人にとっての生活の場における言語保証としての日本語教育に加え、誰もが自分らしく生きていける社会をつくるための社会教育としての役割を兼ね備えています。

さらに、地域における日本語教室は、災害時に弱者となりがちな在住外国人を孤立させないセーフティネットとしての機能を有しています。この新しい取り組みをとおし、外国人住民と日本人住民をつなぎ、顔の見える人間関係を構築し、多文化共生社会づくりを推進していく人脈が広がっていくことを期待します。

注) 「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」\*

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/nihongo\\_curriculum/pdf/curriculum\\_ver03.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/pdf/curriculum_ver03.pdf)

「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」\*\*

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/nihongo\\_curriculum/pdf/curriculum\\_guidebook.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/pdf/curriculum_guidebook.pdf)



# ちょっといわせてはいよ

## わたしと日本語

熊本在住の外国人の方々に、日本語や熊本に対する思いについてインタビューを行いました。国籍も様々な12名をご紹介します!

### 【質問内容】

- ①名前
- ②出身国
- ③熊本に住んでどのくらい経ちましたか?
- ④なぜ熊本に来ましたか?
- ⑤熊本で好きな場所は?
- ⑥なぜ日本語を勉強しているのですか?
- ⑦好きな日本語
- ⑧熊本の皆さんへ、新年のメッセージ



**めっちゃ**

そうなんだ!

左  
① イェジン  
② 韓国、釜山  
③ 2か月

右  
① ソンミ  
② 韓国  
③ 2か月  
④ 熊大に留学した先輩からの勧めで。  
⑤ 熊本城  
⑥ ひらがなを見て、かわいいと思ったため。  
⑦ 「そなんだ!」(よく使う言葉だそうです。)  
⑧ くまもん 愛してる!

**ときどき**

① ダニエル  
② アメリカ  
③ 3ヶ月  
④ 同じくアメリカ人の妻がJETプログラムに参加しているため。  
⑤ 白川沿いの長堀通り  
⑥ 高校時代、日本の映画やアニメを研究するプロジェクトで興味を持ったため。(これが現在の奥様との出会い!)  
⑦ 「ときどき」(どんな質問の答えにもなるため。)  
⑧ Don't worry, be happy!(英語で「心配しないで、幸せになろう!」)

**心に太陽**

① ミワコ  
② アメリカ  
③ 3ヶ月  
④ 交換留学生として。  
⑤ 山鹿の八千代座(古い日本が好き)  
⑥ 父が日本人なので、日本のことをもっと学びたいと思った。  
⑦ 「心に太陽」(祖母の遺言)  
⑧ 熊本に来てほっとしました!ありがとうございます!

**めちゃくちゃ**

① ショウ  
② 中国  
③ 9か月  
④ 交換留学生として  
⑤ 阿蘇山  
⑥ 日本の伝統文化(歌舞伎や文学)にふれたことがきっかけ。  
⑦ 「めちゃくちゃ」(ドラマで印象に残っているため。)  
⑧ 熊本に住みたい!

**ありの思いも天に届く**

① リン  
② 台湾  
③ 3ヶ月  
④ 交換留学生として。  
⑤ 阿蘇山、熊本城  
⑥ 宮崎駿のアニメがきっかけで。  
⑦ 「ありの思いも天に届く」(高校の授業で学んだ言葉)  
⑧ 熊本には色んな外国の人がいます!

**いくばい!**

① ファイサル  
② サウジアラビア  
③ 1年半  
④ 東京に住んでいたが、もっと小さな都市に住みたくなったため。  
⑤ 上通、熊本城  
⑥ 日本そのものに、なぜか惹かれたため。  
⑦ 「いくばい!」  
⑧ 政令指定都市になっても、熊本の良いところが変わりませんように!

**どうも!**

① ホマイラ  
② バングラディッシュ  
③ 3ヶ月  
④ 夫が熊大に留学することになったため。  
⑤ フラワーヒル菊池高原  
⑥ 熊本で仕事に就くため。  
⑦ 「どうも!」(便利な言葉だから。)  
⑧ Have a blast!(英語で「とびっきり楽しもう!」)

**大丈夫です**

① ブラント  
② トルコ  
③ 3ヶ月  
④ 友人の勧めがあったため。  
⑤ 阿蘇山  
⑥ 日本のスポーツ(特に空手や柔道)に興味があったため。  
⑦ 「大丈夫です」(よく使う言葉)  
⑧ I Love くまもと!

**そっか!**

① アンドレア  
② イタリア  
③ 2011年11月から  
④ 国際結婚のため。  
⑤ 熊本城  
⑥ 熊本の女性との結婚がきっかけ。  
⑦ 「そっか!」アニメでよく聞いたとのこと  
⑧ CARPEDIEM! (ラテン語で「今を生きよう!」)

**おもしろい**

① アレックス  
② イギリス  
③ 1ヶ月  
④ 彼女が熊本在住のため。  
⑤ 阿蘇、黒川  
⑥ 現在熊本に住む彼女がイギリスに留学中に知りあい、今度はこちらが会いに来ている。  
⑦ 「おもしろい」(いつも使えるだけ使っているそうです。)  
⑧ The world's not gonna end!(英語で、「世界はまだ終わらない!」)  
※マヤ歴が2012年で終わっていることにふれて。)

**ぎりぎり**

① ヘンニ  
② ドイツ  
③ 3ヶ月  
④ 交換留学のため。  
⑤ 熊本武道館(なぎなたを学んでいるそうです!)  
⑥ 発音が美しいと思ったため。  
⑦ 「ぎりぎり」「べらべら」などの擬音語、擬態語(ドイツにはない、かわいい音だと思う)  
⑧ もっと熊本の人と話したい!





このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

## 協力隊 活動レポートinセネガル

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 エイス対策  
 さるわたり まゆみ  
**猿渡 真由美**さん  
 （任地セネガル、荒尾市出身）

2011年9月27日アフリカの地を踏みました。1年前の私には想像できなかったことです。青年海外協力隊の応募時、セネガルを第一志望にしたのですが、その時初めて地図でセネガルの位置を調べたくらいでした。「セネガルってどこね？」周りの人の反応もこうでした。そこで伝えるのは「首都はダカールというよ」です。ダカールと聞くと以前行われていた“パリ・ダカールラリー”を知っている人からは「あぁ」と良い反応が返ってきます。セネガルはアフリカの西方部、大西洋に面しています。気候はステップ気候といって雨季と乾季があり、乾季には短い丈の草しか生えてこないという気候です。しかし、私が到着したのは雨季が終わる頃。青々と茂った木々が心地よい陰を作ってくれています。

私が2年間お世話になる任地ンバケに入ったのは10月26日です。ンバケはダカールから約180km内陸に入ったところで、車で3時間くらいかかります。隣町にはセネガル最大のモスクがあるトゥーバがあります。ンバケはその影響を受けイスラム色の強いところだそうで

す。確かにお酒、そして豚肉も売っていません。敬虔なイスラム教徒の人が多く、みなさん穏やかで親切です。

私が任地に着任して2週間後に、イスラムのお祭り「タバスキ」が行われました。タバスキは犠牲祭ともいって一家で一頭、羊を絞めて家族みんなでそれを頂くというお祭りです。私は先輩隊員の上司の家へお邪魔しました。お父さんが羊を捌き、子どもたちは内臓の処理をする。それをお母さんが調理するといったチームプレイができています。動物が食肉になっていく過程を私たち現代日本人は実際にほとんど見たことがありません。一見残酷に見えるこのお祭りですが、子どもたち、そして私に、食事ができる有難さ、命の大切さを教えてくれるお祭りでした。

セネガルに到着してまだ1ヶ月と少し。しかし、もう2年間のカウントダウンはスタートしています。これから本番です。周りにいる人の力になれるよう一歩ずつ歩んでいきたいと思います。



現地での活動中の筆者（中央）



木々が木陰を作っているンバケの街道

# 未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について  
専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。

## 義援金と支援金

前回、基金型で活動するボランティアバックアップセンターについて解説しました。今回は、義援金と支援金の違いについて説明したいと思います。みなさんは、3月11日の映像を見た時に、「なんとかしたい」「はやく援助の手を届けたい」と思われたことと推察します。しかし結果として、義援金が配られたのは、遥かに月日が経ってからでした。この結果に、がっかりされた方も多いと思います。

義援金とは、赤十字に代表される被災者への見舞金等のことを指します。通常は日本赤十字社に全てを集めてから、末端の行政を通して後日、被災者に分配されるものです。これは、公平・平等性を優先するために、被災者に届くまで多くの時間を要します。そのため被災後の10万円は、1年後の100万円にも相当するといわれても間に合わない結果になるのです。また支援団体が行う緊急支援や復興支援には使われません。

一方、支援金とは、被災地で支援活動を実施している機関・団体(NPO/NGO)への活動資金のことです。この特性は、被災地の実情に合わせて、必要な支援活動に各団体が柔軟にお金を使うことができます。その目的は、寄付者が自

分たちの代わりに支援活動を行ってくださっている人々を応援したいと思っていることです。自由度が高く、流動的に使えるのが大きな特徴です。

現在、中央募金会

が集める支援金が目標額の30億円を突破しました。被災者に直接支給される義援金の3,384億円(11月18日時点)には及びませんが、ボランティアを後押しする仕組みとして、存在感が高まっており、募金会は目標を更に50億円に引き上げました。現在述べ934団体に12億2千万円が配分され現地への大きな助けになっています。

いままでは、活動内容も瓦礫撤去や炊き出しが中心でしたが、現在は被災者のメンタルケアや仮設住宅の雨よけの設置など、ニーズの変化に合わせて多様化しています。被災から8ヶ月を過ぎ被災者の心情は幻滅期に入っており、ますます支援金のニーズは高まっています。



筆者:羽賀 友信さん  
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長  
新潟NGOネットワーク顧問  
JICA地球ひろば 国際協力サポーター  
長岡市教育委員、JICA専門家  
※当事業団多文化共生アドバイザー

## あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協力を心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

\*webでも公開しています。( <http://www.kumamoto-if.or.jp/> )

発行:年4回(4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:単発(1回)20,000円、半年契約(2回)30,000円、年間契約(4回)40,000円



# ちよっと日本語

Japanese Tip

## これ・それ・あれ

NPO法人日本語サポートあさ  
代表 小川 ひろみ さん

日本語テキストの比較的早いところに「これは本です。それはペンです。あれは時計です。」という項目があります。まじめな指導者は、テキストどおり、ペンや本をあっちこっちにおいて「これ・それ・あれ」といいながら大奮闘。そこで学習者から「違いは何メートルですか？」と質問を受けることになります。背中を搔いてあげる人が「ここ？」といえは、「そこそこ」というのはだれか。遠くにいる人に向かって「おい！今からそこへいくぞ。」といい、そばにいる仲間には「みんな！今からあそこへいくぞ。」というとき、距離は同じでも話している相手が違うことに注目すると、日本語の「これ・それ・あれ」は距離でなく、話し手と相手の関係だと気づきます。絵や文字を使ったとしても頭だけで考えたり翻訳したりせず、だれがだれにどんな時に使うか、実際の場面や状況を体を使ってやってみれば、日本語の「これ・それ・あれ」の意味も使い方もわかるのではないのでしょうか。

### きふプロ

国際交流振興事業団 中川です。12月10日に行われたイヤーエンドパーティのご報告をさせていただきます。毎年200名以上の皆さまにお越しいただく、国際交流会館の一大イベント！カンファッショ、くまモン体操や抽選会など、あっという間の2時間半でした。



このパーティの楽しみといえば「食」ですが今年も、韓国、スリランカ、タイ、中国、フィリピンなど、世界各国の料理が並びました。中でも注目はパキスタンのハラール料理。ハラール料理とは、イスラム教の教えに則って処理された健康的、清潔、安全な肉を使った食事のことで、イスラム教徒以外の人々にも人気でした。「こんな文化があるんだ！」と学びながら、熊本に住む外国人それぞれの文化を体験することができたと思います。

笑顔で歓談する参加者の方々を見ながら、友達と一緒に「ひととき」って素晴らしいと改めて感じました。それが異文化に属する友人だと尚更、全く新しい世界に触れることができ、気持ち深く色鮮やかになっていきます。いざという時、頼りになるのは友人ですし、人と人の絆はひいては国の絆に繋がっていきます。国境を越えた友情が、強く長く続きますように☆

## ☆平成24年4月から翌年3月までの平成24年度の賛助会員の募集を開始します。

(財)熊本市国際交流振興事業団では、当事業団の活動にご理解とご参加をいただくと共に、事業活動資金へのご支援をお願いしています。多くの皆様と一緒に、国際交流や国際協力の輪を広げながら豊かな社会を創造していきたいと考えています。

### 現会員の皆様の更新、また新規のご入会を心よりお待ちしております。

尚、会員の皆様には、本「ニュースレターくまもと」やメルマガ(インターネット)による国際交流情報の提供、当事業団主催講座の受講料会員割引や国際交流会館駐車場の利用割引など、数多くの特典をご用意しています。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成25年3月までの会員期間となります。

### <入会のお申し込み・お問い合わせ>

(財)熊本市国際交流振興事業団事務局  
〒860-0806 熊本市花畑町4-8 熊本市国際交流会館  
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783  
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

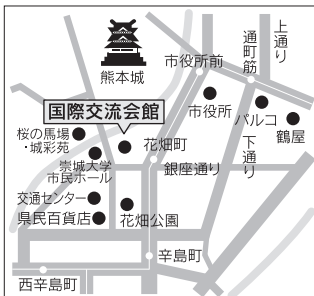
### 継続・新規ご加入ありがとうございました(平成23年度会員)

(平成23年12月10日現在) (個人)50音順(敬称略)

赤山 聖子	坂本 球来	平田 淑子	山口 桂子
石嶋 幸子	志水 美咲	福田 有紗	山部 征三
石原 元晃	新開 直子	三隅 洋子	山本 理恵
魚谷 未季	田中 美和	宮崎 薫	山本利江子
有働 幸正	田中裕佳子	宮本さつき	梁 韻盈
緒方 梓	中島 拓郎	室屋 暢美	
海崎 和美	中嶋穂菜美	森 緑	
桑原 正巳	庭木ももこ	矢野 幸晴	

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！  
(団体)50音順(敬称略)

- 阿蘇ハイランド開発株式会社
- 医療法人社団 愛育会 福田病院
- NIコミュニケーションズキャリアアウェーブ
- 学校法人 君が瀬学園 崇城大学
- 株式会社キャッツ
- 株式会社県民百貨店
- 株式会社熊本シティエフエム
- 株式会社サンカラー
- 株式会社JTB九州熊本支店
- 株式会社ニユースカイホテル
- 株式会社北翔工業
- 学校法人 鎮西学園
- 九州産交ツーリズム(株)熊本交通センターホテル
- 九州農水株式会社
- 熊本液化石油ガス事業協同組合
- 熊本学園大学
- 熊本市教育委員会 学校教育部
- 熊本城桜の馬場リテール株式会社
- 熊本地域婦人会連絡協議会
- 熊本日独協会
- 熊本日米協会
- コスギ不動産
- (財)熊本市駐車場公社
- 志成館高等学院
- 下田れい子お茶教室
- ティスカバリーくまもとボランティアの会
- 西日本電信電話株式会社 熊本支店
- マルヒサ食品
- 梅ビジネスマン 新熊本ホテル
- London Bridge International School



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩 3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3分

from Aso-Kumamoto Airport-45minutes by car

from Kotsu Center-3minutes walk

from "Hanabata-cho" tram stop-3minutes walk

### 熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時  
多文化共生オフィス(午前11時～午後6時)  
096-359-4995(直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation  
Kumamoto City International Center  
Service Hours 9:00 a.m.-8:00 p.m.  
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)  
096-359-4995 (Dial-in)  
Closed: 2<sup>nd</sup> and 4<sup>th</sup> Mondays of each month, Dec.29<sup>th</sup>～Jan3<sup>rd</sup>